

平成 29 年 8 月 10 日

土佐リハビリテーションカレッジ
理事長 大崎 博澄 様

学校関係者評価委員会
委員長 北村 剛

平成 29 年度学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小笠原 正（企業等評価委員）
- ② 一圓 智加（企業等評価委員）
- ③ 細田 里南（卒業生評価委員）
- ④ 北村 剛（卒業生評価委員 委員長）
- ⑤ 井澤 三男（専門家等評価委員）
- ⑥ 濱川 美香（高等学校等評価委員）
- ⑦ 下村 幸正（保護者評価委員 副委員長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 27 年 8 月 29 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
- 第 2 回委員会 平成 28 年 10 月 1 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
- 第 3 回委員会 平成 29 年 7 月 29 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）

3 学校関係者評価委員会報告書

別添のとおり

以上

別添

平成 29 年 8 月 10 日
土佐リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

平成 29 年度学校関係者評価委員会報告書

平成 29 年 7 月 29 日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて評価結果をまとめた。

I. 学校運営目標について

1. 国家試験合格率について

【平成 28 年度の取り組み】

○国家試験合格率「新卒者 100%」に対する達成状況

- ・第 52 回理学療法士国家試験において、全国では新卒受験者 10,721 名に対し合格者 10,319 名（合格率 96.3%）であった。一方、本校では新卒受験者 41 名に対し合格者 39 名（合格率 95.1%）であった。
- ・第 52 回作業療法士国家試験において、全国では新卒受験者 5,303 名に対し合格者 4,800 名（合格率 90.5%）であった。一方、本校では新卒受験者 31 名に対し合格者 28 名（合格率 90.3%）であった。
- ・本校両学科共に「新卒者合格率 100%」の目標を達成できなかったが、全国平均と同等の合格率を示すことができた。なお、既卒者も含む受験者全体の合格率は両学科共に全国平均を約 2 ポイント上回った。

【平成 29 年度の目標】

○国家試験合格率「新卒 100%」

- ・国家試験対策の基軸は 4 年間の教育の積み重ねである。各学年で基本的な知識と技術の定着を図るとともに自ら学び取る姿勢も培う。
- ・国家試験の出題傾向の分析と対策を 3 年生次から始める。
- ・多数の模擬試験を繰り返すことで学習の進捗度を確認し弱点克服に活かす。
- ・学生が対策授業に過度に依存しないよう、校内での自己学習も促す。個人あるいは小集団で落ち着き安心して主体的に受験勉強に取り組むことができるよう学習環境を整える。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・特になし

2. 4年間卒業率について

【平成 28 年度の取り組み】

○4年間卒業率「75%以上」に対しての達成状況

- ・平成 25 年度入学生である第 21 期生の入学数は理学療法学科 45 名、作業療法学科 42 名であった。これらの内、本校修業年限である 4 年間で卒業できたのは前者の学科で 39 名（卒業率 86.7%）、後者の学科で 28 名（卒業率 66.7%）であった。
- ・作業療法学科では本校運営目標に加え、文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に定められている卒業率 70%以上の規定も達成できなかった。

【平成 29 年度の目標】

○4年間卒業率「各学科 80%以上」

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・留年をしていても優秀な人材はもちろんいるが、求人施設側としては、できれば 4 年間で卒業している者を受け入れたいと思うので、この目標について達成をできるように努力をしていただきたいと思う。

【学校としての対策】

- ・学校の信頼度にも影響してくるので、この数字に対して一生懸命取り組んでいく。

3. 退学者数および留年者数について

【平成 28 年度の取り組み】

○退学者数および留年者数「各 10 名以内」に対しての達成状況

- ・平成 28 年度当初の在学学生総数は 309 名（理学療法学科 164 名、作業療法学科 145 名）であった。この内、退学者は 12 名（退学率 3.9%）、留年者は 6 名（留年率 1.9%）を示し、後者の目標は達成できた。
- ・なお、平成 27 年度では在学学生総数 319 名に対して、退学者 16 名（退学率 5.0%）、留年者 17 名（留年率 5.3%）であったので、平成 28 年度では前年度に比べて退学者と留年者の人数を抑制できた。

【平成 29 年度の目標】

○退学者年間数「10 名以内」、留年者数「5 名以内」

- ・教職員と学生との二人三脚で卒業と国家資格取得を目指す。
- ・授業運営では学びへの関心を喚起し、過不足なく効果的に教授できるよう努める。そしてチューター制度等の個別的な学習支援も積極的に導入する。
- ・クラス担任等が中心となって授業の出欠状況や態度、成績等を把握し、それらを学科教員で共有する。そのことにより学業停滞が起こりそうな学生を早期に抽出し、早期の問題解決に努め、円滑な学生生活を実現できるよう支援する。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・H27～H28 にかけて留年者数が減少しているがカリキュラムの大幅な変更があったのか。

【学校としての対策】

- ・カリキュラムの変更はない。取り組みの面でいえば、チューター制度を取り入れた。少人数でグループを作り勉強以外の学校生活についても聴取をしているので、その成果が反映されているのではないかとと思われる。

4. 入学試験受験者実数について

【平成 28 年度の取り組み】

○入学試験受験者実数「150 名以上」に対する達成状況

- ・平成 29 年度入学生数は理学療法学科 44 名、作業療法学科 44 名であった。進展する 18 歳人口の減少とそれに相反し増え続ける理学療法士・作業療法士養成校等の事情により、高知県内のみならず全国でもリハビリテーション専門学校で入学生の確保が大きな課題となっている。
- ・本校では入学定員以上の学生数を確保することができたものの、両学科合わせての入学定員 80 名に対して、平成 29 年度入試の受験者実数は 98 名（理学療法学科 56 名、作業療法学科 42 名）にとどまった。入学生募集のための広報等に教職員一丸となって注力したが、運営目標「受験者実数 150 名以上」を達成することが困難であった。

【平成 29 年度の目標】

○入学試験受験者実数「120 名以上」

- ・本校の利便性の良い立地や充実した教育および福利施設の優位性だけに頼るのではなく、学校運営指標の要となる国家試験合格率や就職率等を向上させることで本校への信頼を獲得し、高校生等の受験対象者に対する訴求力を強化する。
- ・オープンキャンパス開催・進学ガイダンス参加・高等学校訪問・インターネットメディア広告等の広報活動に一層注力する。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・インターネットメディア広告等の広報活動に注力とあるが、最近自分のスマートフォンで土佐リハの広告などを見かけるようになったので、うまく活用できているのではないかと思う。

【学校としての対策】

- ・従来はテレビ CM や新聞広告、また SNS も活用していたが、今年度からインターネット広告に力を入れている。Instagram や Twitter を活用し当校のホームページへアクセスしてもらえりような仕掛け作りをしている。オープンキャンパスについても専用ページを設けるなど積極的に宣伝している。

5. 就職率について

【平成 28 年度の取り組み】

○就職率「100%」に対する達成状況

- ・両学科の就職率は第 1 期卒業生以来、21 年連続して 100%を達成している。平成 29 年度採用求人数は理学療法学科 2,644 人、作業療法学科 2,469 人であった。本校への求人数は高知県外において毎年増加を続けており、5 年前に比べ理学療法学科 31.9%、作業療法学科 16.9%それぞれ増加した。

【平成 29 年度の目標】

○就職率「100%」

- ・求人状況は就職志望の分野や地域の違いによって様々である。しかし、就職活動は全体として厳しさを増している。そのような環境下で採用試験を勝ち抜ける人材を 4 年間の教育により育成する。
- ・総合的な就職支援によっても競争力を発揮できるよう援助する。就職支援として、求人の獲得とその情報提供、就職説明会と研修会の開催、小論文や面接等の採用試験対策等を行う。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・特になし

Ⅱ. 保護者に対するアンケート調査について

【保護者アンケート調査の概要】

- アンケート表は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構により作成された「専修学校における学校評価ガイドライン」（以下、ガイドライン）を参考に作成した。
- 平成 28 年 11 月末現在で本校に在籍する 305 名の保護者を対象とした（兄弟で在籍している場合は 1 部のみ）。調査表は保護者へ郵送し、学校に返送してもらった。アンケート調査への回答は無記名としたが、属性に関する記載欄を設け学科と学年は聴取していた。アンケートの集計は学校関係者評価委員会の運営担当職員がおこなった。
- 30 の質問項目と自由記載欄で構成されている。
各質問に対し「大いに思う」「そう思う」「あまり思わない」「全く思わない」「わからない」の 5 選択肢の中からもっとも近いものを択一してもらった。
- 集計にあたっては「わからない」を除外したうえで「大いに思う」を 4 点、「そう思う」を 3 点、「あまり思わない」を 2 点、「全く思わない」を 1 点として各設問における平均点を算出した。なお各設問は「思う」度合いが高いほど肯定的となるようにした（肯定的の最高点 4 点、最低点 1 点）。
 - アンケート実施期間：平成 28 年 12 月 19 日～平成 29 年 1 月 16 日
 - 送付数 302
 - 回答数 80 （回答率 26.5%）
 - 回答者 保護者 50 名（62.5%） 学生 7 名（8.7%） 合同 23 名（28.8%）
 - 学科内訳 理学療法学科 47 名（58.7%） 作業療法学科 33 名（41.3%）
 - 学年内訳 1 年生 26 名（32.5%） 2 年生 15 名（18.7%）
3 年生 19 名（23.8%） 4 年生 20 名（25.0%）

※平成 28 年度 保護者アンケート結果 別紙参照

【学校関係者評価委員からの意見】




- ・項目を見てみると、保護者としてはどう評価をしていいかわからない設問があったり、答えにくい質問が多いのではないかとと思われる。回収率を上げるためには、設問の見直しが必要ではないかと感じる。

【学校としての対策】

- ・内容について見直し、より良いアンケートを作成していきたいと思う。

平成 28 年度 保護者アンケート結果

	質問	評定平均	H27 分
1	学校の理念・教育方針について理解できていると思う。	2.9	2.9
2	学則について理解できていると思う。	3.0	2.9
3	教育活動に関する情報公開は適切に行われていると思う。	3.0	2.9
4	授業内容は充実し、わかりやすく展開していると思う。	3.0	2.9
5	授業レベル・学習量は適切であると思う。	3.0	2.7
6	教員は一人ひとりの学習状況を把握していると思う。	2.9	2.7
7	担任と学生とのコミュニケーションは十分取れていると思う。	3.0	2.9
8	教育カリキュラム（時間割等）は適切であると思う。	3.0	2.9
9	授業評価の実施・評価が適切に行われていると思う。	3.0	3.0
10	成績評価は適切に行われていると思う。	3.1	3.0
11	臨床実習中のサポートは十分に行われていると思う。	3.0	2.8
12	国家試験対策は充実していると思う。	3.0	2.9
13	退学率の低減のための対策が図られていると思う。	2.7	2.4
14	学生の相談窓口は明確になっていると思う。	2.8	2.8
15	教員は保護者と必要に応じて連絡を取り、家庭と適切な連携を保っていると思う。	2.7	2.5
16	学生の健康面や安全面における指導は適切になされていると思う。	2.9	2.8
17	学校事務職員の窓口や電話対応は適切に行われていると思う。	3.0	3.1
18	クラブ活動などの課外活動は充実していると思う。	2.7	2.7
19	就職に関する指導・対策は充実していると思う。	3.0	3.0
20	専門教育を学ぶ設備（機器や用具）は充実していると思う。	3.1	3.1
21	図書室は十分に整備されていると思う。	3.0	3.1
22	食堂は十分に整備されていると思う。	3.1	2.9
23	学校の防災設備は十分に整備されていると思う。	2.9	3.0
24	本校在学中の学納金は低く抑えられていると思う。	2.1	2.0
25	個人情報保護は適切に行われていると思う。	3.0	3.0
26	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っていると思う。	3.0	2.9
27	学生のためのボランティア活動を奨励・支援していると思う。	3.0	3.0
28	地域に対して公開講座などを積極的に開催していると思う。	2.7	2.6
29	学校の運営状況は十分に公開されていると思う。	2.8	2.8
30	本校に入学して「良かった」と思う。	3.2	3.2

	前年度よりアップ
	前年度よりダウン
	前年度と同 数 値